

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	専修学校ロシア極東大函館校
設置者名	学校法人 函館国際学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
文化・教養	ロシア語科	夜・通信	1592 単位時間	160 単位時間	
	ロシア地域学科	夜・通信	2870 単位時間	320 単位時間	
		夜・通信			
		夜・通信			
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.fesu.ac.jp/infoschool/disclosure.php

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	専修学校 ロシア極東大函館校
設置者名	学校法人 函館国際学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.fesu.ac.jp/infoschool/R2理事（役員）名簿.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	(株)キングベーク 代表取締役	R1. 11. 27～ R4. 11. 26	学校運営状況への チェック機能
非常勤	函館商工会議所 事務局長	R1. 11. 27～ R4. 11. 26	学校運営状況への チェック機能
非常勤	函館市中学校長会元会長	R1. 11. 27～ R4. 11. 26	学校運営状況への チェック機能
非常勤	函館空港ビルデング(株) 専務取締役	R1. 11. 27～ R4. 11. 26	学校運営状況への チェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	専修学校ロシア極東大函館校
設置者名	学校法人 函館国際学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<p>○本校においては、ロシア語科の一部科目を除き、選択科目がないため、シラバスは講義の履修の参考になるものではない。</p> <p>○シラバスには共通フォーマットがあり、以下の項目を日本語で表示している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目の基本情報 (教科名・履修年次・実施学期・時間数・期間) ・担当教員 ・教科書や補助教材・参考書など ・学習到達目標 ・学習上の留意点 ・評価方法 ・授業項目 (各回の具体的な学修内容) <p>○シラバスの作成に際して各教員は、前年度の授業内容や授業の進行が適切であったかどうかを振り返り、見直しを行いながら、翌年度のシラバスに反映・改善している。また、ロシア語会話・文法・講読など、次年度にも共通する科目については、次年度に担当する教員との間で、授業の進度や学生の理解度などの情報を共有し、シラバス作成の際の参考材料としている。</p>	
授業計画書の公表方法	https://www.fesu.ac.jp/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
<p>○授業科目の履修は、原則として各期末に行う試験に合格することによって認定している。また、試験を受験するには原則、授業時間数の5分の4以上の出席が必要である。ただし、出席がこれに満たない場合は、教授会で受験許可の可否を決定している。</p> <p>○各教科の評価については、シラバスに記載しているとおりである。</p>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>○成績評価の方法は、出席率や授業内で実施した小テスト、提出物、期末試験をもとに行う。各教科の詳細についてはシラバスに記載しているとおりある。</p> <p>○成績評価の基準は、「5、4、3、2、1」で行うが、「2、1」は本校において不合格としている。</p> <p>○客観的な指標に基づく成績の分布状況は、各学生の成績評価の前・後期の平均値を順位化し、把握している。これを示す資料は別紙のとおり。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>https://www.fesu.ac.jp/infoschool/客観的な指標の算出方法.pdf</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>○ロシア語科においては、学則に規定された全ての履修が認定されることにより、卒業を認定している。</p> <p>○ロシア地域学科においては、学則に規定された授業科目のすべての履修が認定され、かつ卒業論文を別に定める時期までに提出し、合格を認定され、さらに校長が指定する期日に実施する卒業試験に合格した者の卒業を認定している。</p> <p>○ロシア地域学科が提出する卒業論文は、学内の教員だけでなく、学外の学識経験者に依頼し、客観的な視点から論文評価の実施を行っている。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>https://www.fesu.ac.jp/infoschool/卒業の認定に関する方針.pdf</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	専修学校ロシア極東大函館校
設置者名	学校法人 函館国際学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.fesu.ac.jp/infoschool/R1/貸借対照表.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.fesu.ac.jp/infoschool/R1/資金収支計算書.pdf
財産目録	https://www.fesu.ac.jp/infoschool/R1/財産目録.pdf
事業報告書	https://www.fesu.ac.jp/R1/事業報告書.pdf
監事による監査報告（書）	https://www.fesu.ac.jp/infoschool/R1/監査報告書.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	ロシア語科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2192 単位時間/単位	440 単位時間 /単位	1672 単位時間 /単位	116 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			2228 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		7人	0人	8人	6人	14人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>○シラバスには共通フォーマットがあり、以下の項目を日本語で表示している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目の基本情報（教科名・履修年次・実施学期・時間数・期間） ・担当教員 <ul style="list-style-type: none"> ・教科書や補助教材・参考書など ・学習到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・学習上の留意点 ・評価方法 <ul style="list-style-type: none"> ・授業項目（各回の具体的な学修内容） <p>○シラバスの作成に際して各教員は、前年度の授業内容や授業の進行が適切であったかどうかを振り返り、見直しを行いながら、翌年度のシラバスに反映・改善している。また、ロシア語会話・文法・購読など、次年度にも共通する科目については、次年度に担当する教員との間で、授業の進捗や学生の理解度などの情報を共有し、シラバス作成の際の参考材料としている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>○成績評価の方法は、出席率や授業内で実施した小テスト、提出物、期末試験をもとに行う。各教科の詳細についてはシラバスに記載しているとおりある。</p> <p>○成績評価の基準は、「5、4、3、2、1」で行うが、「2、1」は本校において不合格としている。</p>

卒業・進級の認定基準
(概要) ○ロシア語科においては、学則に規定された全ての履修が認定されることにより、卒業を認定している。
学修支援等
(概要) ○テルキ対策講座の開設 ○TOE I C対策講座の開設 ○放課後補習の実施

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
6人 (100%)	1人 (16.7%)	3人 (50%)	2人 (33.3%)
(主な就職、業界等) 旅館、飲食店、製造業			
(就職指導内容) 個別面談・就職ガイダンス・インターンシップ研修・ワークルール出前講座			
(主な学修成果(資格・検定等))			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
15人	5人	33%
(中途退学の主な理由) 進路変更、健康上の理由、一身上の都合		
(中退防止・中退者支援のための取組) 全学生対象の個人面談(年2回)		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	ロシア地域学科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	4584 単位時間/単位	730 単位時間 /単位	3614 単位時間 /単位	276 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
160人	24人	0人	8人	6人	14人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>○シラバスには共通フォーマットがあり、以下の項目を日本語で表示している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目の基本情報（教科名・履修年次・実施学期・時間数・期間） ・担当教員 ・学習到達目標 ・評価方法 <p>・教科書や補助教材・参考書など</p> <p>・学習上の留意点</p> <p>・授業項目（各回の具体的な学修内容）</p> <p>○シラバスの作成に際して各教員は、前年度の授業内容や授業の進行が適切であったかどうかを振り返り、見直しを行いながら、翌年度のシラバスに反映・改善している。また、ロシア語会話・文法・購読など、次年度にも共通する科目については、次年度に担当する教員との間で、授業の進度や学生の理解度などの情報を共有し、シラバス作成の際の参考材料としている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>○成績評価の方法は、出席率や授業内で実施した小テスト、提出物、期末試験をもとに行う。各教科の詳細についてはシラバスに記載しているとおりある。</p> <p>○成績評価の基準は、「5、4、3、2、1」で行うが、「2、1」は本校において不合格としている。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>○ロシア地域学科においては、学則に規定された授業科目のすべての履修が認定され、かつ卒業論文を別に定める時期までに提出し、合格を認定され、さらに校長が指定する期日に実施する卒業試験に合格した者の卒業を認定している。</p> <p>○ロシア地域学科が提出する卒業論文は、学内の教員だけでなく、学外の学識経験者に依頼し、客観的な視点から論文評価の実施を行っている。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○テルキ対策講座の開設 ○TOEIC対策講座の開設 ○放課後補習の実施

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
3人 (100%)	0人 (0%)	3人 (100%)	0人 (0%)

(主な就職、業界等) 自衛隊、プラント営業、航空関係			
(就職指導内容) 個別面談・就職ガイダンス・インターンシップ研修・ワークルール出前講座			
(主な学修成果(資格・検定等))			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
29人	7人	24%
(中途退学の主な理由) 進路変更、健康上の理由、一身上の都合		
(中退防止・中退者支援のための取組) 全学生対象の個人面談(年2回)		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考(任意記載事項)
ロシア語科	150,000円	700,000円	40,000円	
ロシア地域学科	150,000円	700,000円	40,000円	
	円	円	円	
	円	円	円	
修学支援(任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.fesu.ac.jp/infoschool/学校評価(自己評価・学校関係者評価)について.pdf
学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制)
構成：学校法人函館国際学園の理事・評議員 項目：教育理念・学校運営及び経営目標・教育活動・学修成果・学生支援・教育環境・学生の受入募集・財務・法令等・学校評価・社会貢献・地域貢献

活用方法：自己評価の評価結果について、客観性・透明性を図り、連携協力による学校運営の改善を図る。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
(株)キングバーク	R1. 11. 27～R4. 11. 26	代表取締役
函館商工会議所	R1. 11. 27～R4. 11. 26	事務局長
函館市中学校長会元会長	R1. 11. 27～R4. 11. 26	無職
函館空港ビルディング(株)	R1. 11. 27～R4. 11. 26	専務取締役
函東工業(株)	R1. 11. 27～R4. 11. 26	総務課長
(株)テーオーホールディングス	R1. 11. 27～R4. 11. 26	代表取締役
(学) 関東国際学園	R1. 11. 27～R4. 11. 26	無職
(株)富士サルベージ	R1. 11. 27～R4. 11. 26	代表取締役
(株)リージャスト	R1. 11. 27～R4. 11. 26	代表取締役
清尚学院高等学校	R1. 11. 27～R4. 11. 26	校長
函館山ロープウェイ(株)元社長	R1. 11. 27～R4. 11. 26	無職
在札幌ロシア連邦総領事館函館事務所長	R1. 11. 27～R4. 11. 26	領事
北海道銀行(株)函館支店	R1. 11. 27～R4. 11. 26	支店長
函館市	R1. 11. 27～R4. 11. 26	企画部長
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.fesu.ac.jp/infoschool/disclosure.php		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.fesu.ac.jp/
--

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請の場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	専修学校ロシア極東大函館校
設置者名	学校法人 函館国際学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		一人	一人	一人
内 訳	第Ⅰ区分	一人	一人	
	第Ⅱ区分	人	人	
	第Ⅲ区分	人	人	
家計急変による支援対象者（年間）				人
合計（年間）				人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間が標準時間数の5割以下)	0人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	0人	人	人
計	0人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	0人	人	人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	0人	人	人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。